

(様式) 府立松原高等学校 「学校運営協議会」 報告書 (第1回)

日 時	令和1年6月22日(土) 14:30~17:00			
出席者	運営協議会委員	職名等	学校事務局	校務分掌等
	菊地 栄治	早稲田大学教授	藤原 和子	教頭
	松岡 日出雄	松原市立松原第三中学校長	木村 悠	首席・人権教育主担
	孫 智子	本校PTA会長	伊藤 あゆ	首席
			山口 裕子	人権教育主担
			中川 泰輔	人権教育主担
	教職員等			
	南岡 靖之(1学年代表) 宮崎 舞(1学年人担) 武藤 利佳(1学年) 谷口 彩(1学年) 岡本 虹穂(1学年) 林 知彦(2学年代表) 亀田 恵美(2学年人担) 西尾 奈菜(2学年) 岩崎 江津子(3学年代表) 眞杉 凌(3学年人担) 宮城 歩実(3学年) 坂東 修平(3学年)			
おもな テーマ	1) 本年度「学校経営計画」「学校方針」 2) 今年度の重点項目 3) 運営協議会委員からの感想・提言			
協議内容 の概略	①学校運営協議会 実施要項、平成31年度使用教科書用図書選定について ②本年度の「学校経営計画」の説明等(校長) ③学校方針の説明と重点目標について(木村首席) ④「深い学びプロジェクト」について(中川教諭、西尾教諭、坂東教諭) ・1年「科学と人間生活」の防災単元における釜石のワーク ・3年「現代文」の『卒業』登場人物なりきりインタビュー、ふせんの用紙は宝物 ・グループ学習のすすめかた(目標設定と人数)、主体的に取り組める工夫 ⑤「高等学校における通級による指導」について(伊藤首席、宮城教諭、岡本教諭) ・グループワークモデル、当事者研究の手法。個別学習の目的は集団に還ること。 ・「自分で」ヘルプを出すことの大切さ。 ・「勉強できない」と自分で思っていた生徒が個に応じた指導で、自信をつけている。 ⑥協議委員からのご意見、提言			
提言内容・改善 方策	・カリキュラム・マネジメント、通級に共通しているのは、「松高流」にしているしたたかさ。カリキュラム改革をはじめ、昨年度よりも深まっていて、相当な努力を感じる。 ・カリキュラム・マネジメントについて、どんな議論が進んでいるのかきかせてほしい。プロジェクトを始めてからの変化はどのようなか。教科会議の時間はどのように確保しているか。 -何をめざして授業をするか、教科横断の発想が出てきた。(眞杉教諭) -職員会議の進め方、資料の出し方を工夫し、時間短縮と回数減をはかっている。その分を教科会にあてる工夫。すでに2回、教科会を増やした。(木村首席) ・通級は初めて知る取り組み。人間とは何か、中身のことを置き去りにして学んでいくのは心配。初代の校長先生が、全校集会で話されていたことは今でも覚えている。骨折をして就職試験を受けられなかった子への思いを、感情をあらわにしていた。ヨコ、タテのつながりが強くて、卒業してからの心配。 ・society5.0で頭がいっぱいの世の中で、機械ができないことを松高がしている。個人がよりできるようになる、というより弱さを受け止めようということ。人間している。			